

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-18068

(43)公開日 平成5年(1993)3月5日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 5 K 7/00		K 7819-4E		
B 4 1 J 29/13				
G 0 3 G 15/00	1 0 1	8910-2H		
H 0 1 R 13/52	3 0 2 D	7331-5E		
		8804-2C		
			B 4 1 J 29/ 12	A
			審査請求 未請求	請求項の数 2 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-70200

(22)出願日 平成3年(1991)8月8日

(71)出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72)考案者 小嶋 晃

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式  
会社リコー内

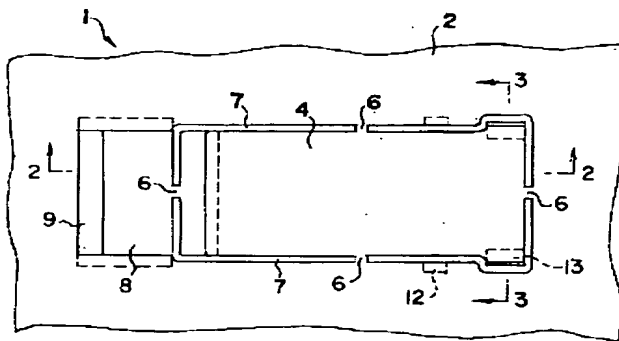
(74)代理人 弁理士 佐田 守雄

(54)【考案の名称】 機器の外装カバー

(57)【要約】

【目的】 ケーブルを接続する際全部を取り外す必要がないため、その都度内部の関係のない部分を露出することがなくて、安全上又は機器の保護上好ましい結果がえられ、ケーブル接続作業が簡単であり、着脱のためにドライバ等の工具を必要とすることのない機器の外装カバーを提供する。

【構成】 ケーブル接続部を有する機器の外装カバーであって、ケーブルを出入させる開口部を構成する部位に、ケーブル接続部を覆う蓋となるものを切離可能に形成し、該蓋は切離後前記開口部に着脱可能に装着され、その装着時にこの蓋と開口部との間にケーブル通過用開口が形成される。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 電力又は信号の授受を行うケーブル接続部を有する機器の外装カバーにおいて、該外装カバーのケーブルを出入させる開口部を構成する部位に、ケーブル接続部を覆う蓋となるものを切離可能に形成し、該蓋は切離後前記開口部に着脱可能に装着され、その装着時にこの蓋と開口部との間にケーブル通過用開口が形成されることを特徴とする機器の外装カバー。

【請求項2】 ケーブル接続部を覆う蓋となるものは、その周囲を連結部を残して切溝でカバー本体から分離し、カバー本体の一侧に低段部を形成してカバー本体との間に間隙を形成し、前記間隙に対向する蓋の部分にそれに挿入する低段部が形成されている請求項1の機器の外装カバー。

## 【図面の簡単な説明】

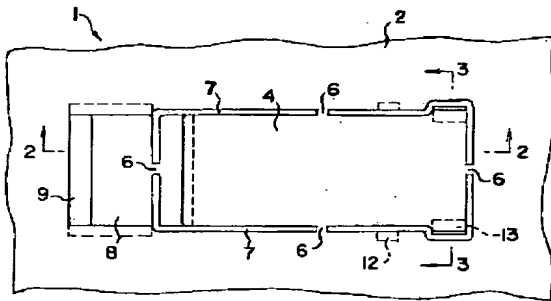
【図1】 この考案の実施例の要部の正面図である。

【図2】 同上の線2-2による断面図である。

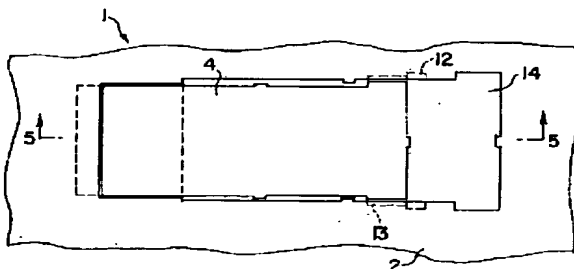
【図3】 同上の線3-3による断面図である。

【図4】 同上の使用時における要部の正面図である。

【図1】



【図4】



2

【図5】 同上の線5-5による断面図である。

【図6】 同上のケーブル接続時における作用説明用斜面図である。

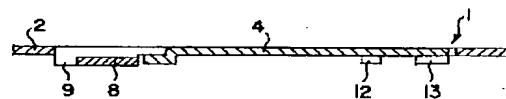
【図7】 同上のケーブル接続後の状態を示す斜面図である。

【図8】 従来の典型的な外装カバーの正面図である。

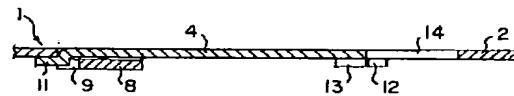
## 【符号の説明】

- 1 外装カバー
- 2 カバー本体
- 3 開口部
- 4 蓋
- 5 ケーブル接続部
- 6 連結部
- 7 切溝
- 8 低段部
- 9 間隙
- 11 低段部
- 14 開口
- 15 ケーブル

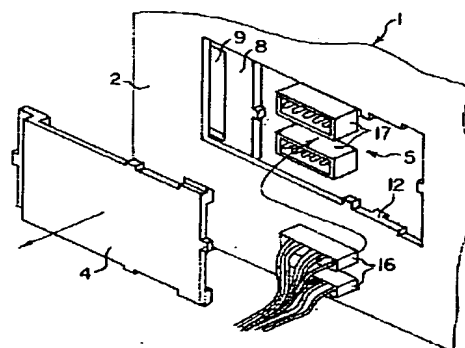
【図2】



【図5】



【図6】



(3)

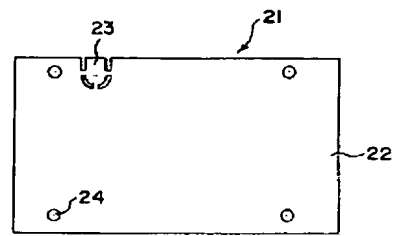
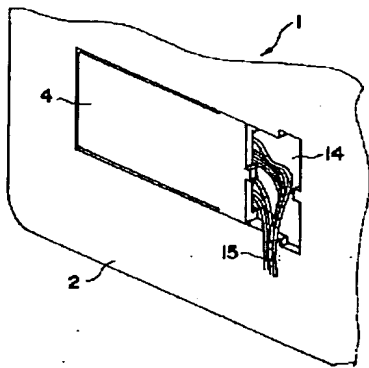
実開平5-18068

3

4

【図7】

【図8】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、複写機等の事務機器と同様の事務機器又は他の機器とが、ケーブルによって電氣的に接続されるようになっている機器の外装カバーに関する。

**【0002】****【従来技術】**

近時複写機等の事務機器は、システム機として使用されることが多くなり、そのため各機器はハーネスで接続されて、電力又は信号の授受を行うようになっており、その際ケーブルの接続部には、(1)単体で使用される場合には接続部が閉鎖され、(2)ケーブルの接続の際には接続部が開放され、(3)ケーブルを接続した後はケーブルが通過する開口以外は閉鎖されるようになっていることが、安全上又は機器保護のために要求されている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

前記のような要求に応えるため、従来は図8に示すような外装カバー21が使用されており、この外装カバー21はカバー本体22のケーブルが通過する部位に、ケーブルが通過する開口を形成するための切取片23を切離可能に形成し、機器本体に着脱可能に装着するためのねじ孔24が設けられていて、このような外装カバー21をねじにより機器本体に装着する。そしてケーブルを接続するに際してはねじを抜きとって、機器本体から外装カバー21を取り外し、ニッパ等の切断用工具によって切取片23を切離して開口を形成し、ケーブルの接続後該ケーブルを前記開口を通過させることとなる。

ところでこのようなものは、前記のようにケーブルを接続する際には、外装カバー21をいちいち機器本体から取り外さなければならず、そのための作業が煩雑であるのに加えて、その都度内部の関係のない部分が露出して、安全上又は機器の保護上好ましくなく、さらに外装カバー21着脱のためにドライバ等の工具を必要とするというような問題がある。

**【0004】**

そこでこの考案の目的は、前記のような従来の外装カバーのもつ問題を解消し、ケーブルを接続する際いちいち全部を取り外す必要がないため、その都度内部の関係のない部分を露出することがなくて、安全上又は機器の保護上好ましい結果がえられ、ケーブル接続作業が簡単であるのに加えて、着脱のためにドライバ等の工具を必要とすることのない外装カバーを提供するにある。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

この考案は、前記のような目的を達成するために、電力又は信号の授受を行うケーブル接続部を有する機器の外装カバーにおいて、該外装カバーのケーブルを出入させる開口部を構成する部位に、ケーブル接続部を覆う蓋となるものを切離可能に形成し、該蓋は切離後前記開口部に着脱可能に装着され、その装着時にこの蓋と開口部との間にケーブル通過用開口が形成されることを特徴とするものである。

そしてケーブル接続部を覆う蓋となるものは、その周囲を連結部を残して切溝でカバー本体から分離し、カバー本体の一側に低段部を形成してカバー本体との間に間隙を形成し、前記間隙に対向する蓋の部分にそれに挿入する低段部が形成されている。

#### 【0006】

##### 【作用】

前記のようなこの考案において、蓋が切離されないでいる外装カバーが装着されている機器にケーブルを接続するに際しては、ニッパ等を用いて外装カバーから蓋を切離してケーブルを出入させる開口部を構成した後ケーブルの接続作業を行い、その終了後外装カバーの開口部に蓋を装着し、この蓋によって開口部との間に形成された開口にケーブルを通過させ、つぎにこのケーブルを交代する際は蓋を取り外ずして前記と同様の作業を行うこととなる。

#### 【0007】

##### 【実施例】

図面に示すこの考案の実施例において、1は外装カバーを示し、この外装カバー1のカバー本体2にケーブル15を出入させる開口部3を構成する部位に、ケー

ブル接続部5を覆う蓋4となるものの周囲を連結部6を残して切溝7で分離し、カバー本体2の一侧（図1で左側）に低段部8を形成してカバー本体2との間に間隙9を形成し、蓋4の低段部8に対向する部分にそれとほぼ同じ高さの低段部11を形成し、カバー本体2の他側（図1で右側）寄りの裏面に突部12を設け、蓋4の同側端部の裏面に突部12に対向する位置に突部13を形成している。

このようにして形成され、図1～3に示すように蓋4が切離されないでいる外装カバー1を機器に装着し、このようなものにケーブル15を接続するに際しては、図6に示すようにニップ等を用いてカバー本体2から蓋4を切離して、ケーブル15を出入させる開口部3を構成した後ケーブル15をこの開口部3から差し込んでそのコネクタ16と機器本体側のコネクタ17とを接続する。

#### 【0008】

その終了後、図4、5に示すように外装カバー1の開口部3に蓋4を右方から左方へ向けて装着することとなるが、その際は蓋4の低段部11をカバー本体2の間隙9に差し込んで、低段部11の表面をカバー本体2の裏面で、また蓋4の裏面をカバー本体2の低段部8の表面で支承するとともに、カバー本体2の裏面の突部12に蓋4の裏面の突部12に係合する。そしてこのようにしてカバー本体2の開口部3と蓋4とによって形成された開口14にケーブル15を通過させ（図7）、つぎにこのケーブル15を交代する際は、蓋4を取り外ずして前記と同様の作業を行うこととなる。

#### 【0009】

##### 【考案の効果】

この考案は、前記のようであって、機器の外装カバーにおいて、該外装カバーのケーブルを出入させる開口部を構成する部位に、ケーブル接続部を覆う蓋となるものを切離可能に形成し、該蓋は切離後前記開口部に着脱可能に装着され、その装着時にこの蓋と開口部との間にケーブル通過用開口が形成されるようになっているので、ケーブルを接続する際いちいち外装カバーを取り外す必要がないため、その都度内部の関係のない部分を露出することがなくて、安全上又は機器の保護上好ましい結果がえられ、ケーブル接続作業が簡単であるのに加えて、着脱のためにドライバ等の工具を必要とすることがないという効果がある。

またケーブル接続部を覆う蓋となるものは、その周囲を連結部を残して切溝でカバー本体から分離し、カバー本体の一側に低段部を形成してカバー本体との間に間隙を形成し、前記間隙に対向する蓋の部分にそれに挿入する低段部が形成されているので、構造が簡単で製作が容易であり、その切離作業も容易であるという効果がある。